

ふるさとシリアを描き続ける作家 ラフィク・シャミ

西口 拓子

はじめに

「現代ドイツを代表するダマスカス出身の作家」¹と紹介される、ラフィク・シャミ（Rafik Schami 1946-）というシリア人がある。ベストセラー作家であるが、ドイツ語を母語とせず、大学を卒業するまでの大半をシリアで過ごしている。イスラム教徒が9割を占める地域に育ちながら、²イスラム教徒ではない。現在、ドイツの文学界でも独特の地位を占めるシャミとは一体どのような作家なのだろうか。

代表作『ダークサイド・オブ・ラブ』³（以下『ダークサイド』と略す）は、8百ページを超す大部の作品だが、⁴発売後まもなくシュピーゲル（Der Spiegel）、フォークス（Focus）、シュテルン（Stern）の各週刊誌でベストセラーリストに登場した。⁵当時のシュピーゲル誌をたどってみると、2004年10月から2005年2月まで20週にわたって20位圏内に入り続けるロングセラーとなっていることが分かる。⁶

彼の作品は、ドイツ語圏内での受容にとどまらず、少なくとも24ヶ国語に翻訳されており、日本でもこれまでに8冊の作品が翻訳出版されている。

1. 母語としない言語での執筆

母語としない作家の発表した作品も広く受け入れられている。フランスでは、アフガニスタン出身のアティーク・ラヒーミー（Atiq Rahimi 1962-）が2008年のゴンクール賞を受賞し、その作品は日本でも翻訳出版された。⁷日本からは多和田葉子がハンブルク（現在はベルリン）

¹ 傍点は筆者。引用は、酒寄進一による「訳者あとがき」より。ラフィク・シャミ『蠅の乳しぼり』酒寄進一訳 西村書店 1995年 241頁。

² 2005年の推計では、シリアの92.3パーセントがイスラム教徒で、キリスト教徒は7.6パーセントである。青山弘之他著『現代シリア・レバノンの政治構造』岩波書店 2009年 8頁。

³ Schami, Rafik: Die dunkle Seite der Liebe. München (Carl Hanser Verlag) 2004. 本稿では2006年 dtv (Deutscher Taschenbuch Verlag) 版を参照する。邦訳はなく、タイトルの日本語訳は英訳にならった。

⁴ 文庫版 (dtv) は千ページを超す。

⁵ Wild, Bettina: Rafik Schami. (dtv portrait) München (dtv) 2006. S.164.

⁶ 2004年10月の第42号に20位でランクインした後、5～11位の間で推移を続け、2005年2月の第8号で19位になるまでベストセラーリストに入り続けた。(Der Spiegel 42/2004から8/2005のBestseller欄を参照した。)

⁷ アティーク・ラヒーミー『悲しみを聴く石』関口涼子訳 白水社 2009年。ラヒーミーがフランスに亡命したのは1984年である。

を拠点として、ドイツ語と日本語の両言語で創作活動に従事していることもよく知られている。多和田のドイツ語での文学活動に対しては、1996年、アーダルベルト・フォン・シャミッソー文学賞（以下「シャミッソー賞」と略す）が贈られた。これは、ドイツ語を母語としない作家に贈られる賞である。

「植民地文化の歴史を持つイギリスやフランスとは違い、「ドイツ文学」はドイツ語母語者によるものという考え方が、比較的最近まで問題とされなかった」が、⁸ 1970年代になってようやくルポルタージュ文学が、外国人労働者問題に目を向けはじめ、やがて外国人労働者自身も執筆を行うようになった。⁹ こうした作品は1980年頃から注目されるようになる。背景のひとつには、ヴァインリヒ（Harald Weinrich 1927-）らの研究がある。ヴァインリヒは1978年にミュンヘン大学の「外国語としてのドイツ語」（DaF）研究所の所長に就任し、同年の冬学期（78/79年）より、ドイツ語圏における外国人作家、いわゆる「外国人労働者」がドイツ語で発表した文学作品の受容史をテーマとして扱った。1979年に外国人のための文学賞を設立し、受賞作に出版への道を拓いた。これがシャミッソー賞の先駆けとなったものであった。¹⁰

1985年の第一回シャミッソー賞は、ベルリン、クロイツベルク地区に生きるトルコ系移民の人々を描いた Aras Ören（1939-）に、奨励賞（Förderpreis）がシャミに授与された。シャミッソー賞自体をシャミは1993年に受賞している。

さて、移民といっても二世としてドイツで生まれ育っていたり、幼少時に移住してきた場合には、言語的なハードルは比較的低いだろう。1989年に『猫たちの聖夜』¹¹ でドイツミステリー大賞を受賞したピリンチ（Akif Pirinçci 1959-）は、トルコ出身であるが、ドイツに来たのは9歳の時だった。同じくトルコ出身でも、1991年にインゲボルク・バッハマン賞を受賞したエツダマ（Emine Sevgi Özdamar 1946-）¹² は、まさに外国人労働者として1965年にドイツに来ている。一度トルコに帰り、演劇人として再びドイツに戻り、舞台の仕事や作家として活躍をしている。¹³ 先日、多和田葉子とともに来日し、NHK『テレビでドイツ語』のインタビューにおい

⁸ 濱崎桂子「非母語話者によるドイツ語文学——シャミッソー文学賞の草創期——」『ドイツにおける多文化社会と異文化干渉』村田経和（代表）（平成7-9年度科学研究費補助金研究成果報告書）1998年 69-87頁所収。69頁。

⁹ 鈴木克己「ラフィク・シャミ——変わるものと変わらぬもの——」『人文研紀要』第56号 中央大学人文科学研究所 2006年 37-57頁所収。37頁。

¹⁰ Wild 2006 S.80. シャミッソー賞創設の経緯は、濱崎 1998年に詳しい。

¹¹ Pirinçci, Akif: Felidae. München (Wilhelm Goldmann Verlag) 1989. 邦訳は『猫たちの聖夜』池田香代子訳 早川書房 1994年。その他の2作品も日本語に翻訳されている。Pirinçci, Akif: Francis – Felidae II. München (Wilhelm Goldmann Verlag) 1993. 邦訳は『猫たちの森』池田香代子訳 早川書房 1996年。Pirinçci, Akif / Degen, Rolf: Das Große Felidae-Katzenbuch. München (Wilhelm Goldmann Verlag) 1994. 邦訳は『猫のしくみ 雄猫フランシスに学ぶ動物行動学』（ロルフ・デーゲンとの共著）鈴木仁子訳 早川書房 2000年。

¹² 濱崎桂子「異質なドイツ語——トルコ人女性作家 Özdamar について」『研究年報』第46号 学習院大学文学部 1999年 95-120頁所収。96頁。

¹³ 濱崎 1999年 97頁。

て、流暢なドイツ語を披露していた。¹⁴ しかし、彼女がドイツに初めてやってきた時には、ドイツ語は全く理解できない状態だったという。

では、シャミとドイツ語の関係はどうだったのだろうか。

彼が学校教育で学んだ言語は、フランス語と英語であった。委任統治の関係もあり、シリアの50-60年代の学校制度は、フランスの制度に準じていたのである。¹⁵ 1971年にドイツへ亡命した時、シャミのドイツ語は片言程度だったという。完璧に使いこなすことのできたフランス語の国ではなく、なぜドイツに亡命したのだろうか。もしもフランスに亡命していたら、普通に暮らしていたら¹⁶ という本人の言葉を考え合わせると興味深い。まずは、彼の生い立ちをたどってみる。

2. 生い立ち

ラフィク・シャミこと Suheil Fadél は、1946年、シリアのダマスカスで6人兄弟の3番目の子どもとして生まれた。両親はともにダマスカス近郊のマルーラ村の出身で、キリスト教徒である。裕福な農家に生まれた父と、貧しい家庭の母との結婚は反対されたため、二人は、1937年にレバノンに駆け落ちをする。長男の誕生後、(シャミの)祖父が二人の結婚を認めたため、ダマスカスに戻ることができたのだ。¹⁷

シャミが誕生した1946年は、シリアにとっては、4百年にわたるオスマン帝国による支配の後の、25年間のフランスの委任統治からの完全な独立を果たした年でもあった。フランスの委任統治時代には、いくぶん優遇されていたキリスト教徒の間に、イスラム教徒が復讐としてキリスト教徒を皆殺しにする計画を立てているという噂が広まった。そのため一家は、シャミの誕生後にダマスカスからマルーラ村に一時的に避難したという。¹⁸

その後も夏になると、一家は涼しいマルーラ村で過ごしている。ダマスカスの夏は、「日中は日陰でも四十二度になることもあり」「夜も寝付けぬほど暑い」¹⁹ ためである。

マルーラ村は、しばしばシャミの作品の舞台となっているが、キリストが布教に用いたというアラム語を話す村、キリスト教徒の村として知られている。(写真1、2)

¹⁴ NHK 教育テレビ 2010年3月3日放送。

¹⁵ Wild 2006 S.34.

¹⁶ Wild 2006 S.153.

¹⁷ 父は Ibrahim Fadél、母は Hanne Joakim である。(Wild 2006 S.12ff.)

¹⁸ Schami, Rafik: Hürdenlauf. In: Damaskus im Herzen und Deutschland im Blick. Von Rafik Schami. München (Carl Hanser Verlag) 2006. 本稿での引用は2009年のdtv版に拠る。S.127-150. S.127. これは、シャミがドイツとシリア両国に25年ずつ暮らした年(1971年)に行った講演の記録である。

¹⁹ シャミ『片手いっぱい星』若林ひとみ訳 岩波書店 1988年 52頁。Schami, Rafik: Eine Hand voller Sterne. Weinheim, Basel (Beltz & Gelberg) 1987. 本稿では、2009年dtv版を参照する。S.33.

父親はダマスカス旧市街のキリスト教徒の居住区でパン屋を営んでいた。その一画が少年時代のシャミの生活のすべてで、イスラム圏にしながら、少数派のキリスト教文化の中で育ったのである。

父親は息子を聖職者にするために、1956年、10歳のシャミをレバノンのイエズス会系統の学校（修道院）に入学させる。そこでは、フランス語での教育が行われていたため、短期間でフランス語を完璧に習得することが求められた。学校での厳しく抑圧的な教育に、辛い思いで耐えたが、シャミは「聖職者ではなく本の虫」になってしまう。²⁰ 修道院の図書室で、バルザック、デュマ、ベルヌーリのフランスの作品を知り、²¹ 魅了されたのである。

病を機に、1959年にダマスカスへの帰郷がかなうが、その後も、読書熱はおさまらず、アメリカの図書館の本をむさぼり読んだ。そこでは本を無料で貸し出していたからである。『アンクル・トムの小屋』、『風とともに去りぬ』をはじめ、フォークナー、スタインベック、ヘミングウェイらのアメリカの作品に親しみ、英語にもなじんでいた。²²

シャミの両親は政治的ではなく、父親は、アラビアで政治的立場を鮮明にするのは危険だと考えていたほどであった。しかし、友人を通して共産党にコンタクトをもつようになり、シャミは1963年、17歳の時に入党する。Rafik Schami というペンネームは、当時の地下活動のために必要に迫られて作ったものだという。Rafik は友、同志、仲間といった意味で、Schami はダマスカス人という意味である。²³

1964年に友人4人と共に al Scharara という若者のための新聞を創刊するが、性に関する記事が多いことなどを理由にされ、ほどなく党から出版禁止を受ける。²⁴

1965年、ダマスカス大学の理学部に入学する。自宅通学であり、60年代は大学の学費も不要だったが、書籍代や交際費、党のための資金などを、裕福なキリスト教徒の家で家庭教師をして稼いだ。²⁵

1966年に al Muntalak という新聞の刊行を始める。これは、文学と政治についての風刺を利かせた記事を掲載した、およそ2×1,5メートルの大版の壁新聞で、月に2回発行し、ダマスカス旧市街の路地のショーウィンドーに掲示していた。そのため上部には大人向けの、下部には子ども向けの記事を掲載した。しかし1969年の秋に当局から発禁処分を受け、3年で廃刊に追い込まれる。²⁶

²⁰ Schami: Hürdenlauf S.132.

²¹ Wild 2006 S.17.

²² Schami, Rafik: Kindheitslektüre. In: Damaskus im Herzen und Deutschland im Blick. München (Carl Hanser Verlag) 2006. 本稿での引用は2009年 dtv 版に拠る。S.26-37. S.29f.

²³ Schami: Hürdenlauf S.136f.

²⁴ Schami: Hürdenlauf S.137f., Wild 2006 S.50.

²⁵ Wild 2006 S.44.

²⁶ Schami: Hürdenlauf S.138, Wild 2006 S.51.

教員を目指していたシャミは、大学の三年次より教師としても働き始めていた。理系の人材は不足しており、大学生でも三年次から教壇に立つことができたのだ。というのは、自然科学系の人々は、石油が採れ十倍も収入が良いサウジアラビアやクウェートに流出していたからであった。

1970年7月にシャミは4年間で大学を卒業する。これは、兵役免除の理由がなくなったことを意味し、11月、おそくとも12月から兵役につかなければならなくなったのである。シャミはそこで、海外への留学への道を探る。フランスと英語が堪能だったため、まずはフランス、アメリカ、オーストラリアへ、それからドイツの大学にも願書を送った。時間的に猶予がない中、一番に許可証を送付したのがドイツのハイデルベルク大学だったため、ドイツへの留学が決まった。

「歴史的シリア」に含まれるレバノンでの学校生活を除けば、初めての国外での生活である。言語も片言程度しかできない国へ行くことになり、さらには親族で亡命したものもおらず、頼れる人物が誰もいなかったことも不安を大きくした。²⁷

それでも、バイルートで3ヶ月過ごした後、1971年に東ベルリン空港を経由して西ドイツに入った。そして、レストラン、工事現場、スーパーなどでパートタイムで働きながら、ハイデルベルク大学で化学を学んだ。

シャミの家庭では、両親はアラム語を話していたが、学校ではアラビア語が使用されたため、早い時期からバイリンガルとして育っていた。さらに少年時代にレバノンの修道院でフランス語を短期間で教え込まれたことが、ドイツ語の習得に役立ちました。それでも言語の習得には並々ならない苦勞が伴った。当初の「言語を失った」状況は、さまざまな作品に表れている。

(本稿 4.1.参照)

さらにドイツ語の文体を学びとるために、ハインリヒ・ハイネ、アンナ・ゼーガース、カール・クラウスなど、19～20世紀の著名な作家の作品の全文を書き写しもした。それでも執筆の際には、内容に完全に集中できるように、ドイツ語の文法の添削を他の人に頼んでいる。これは原稿の売り込みをしていた時から行なっていたという。²⁸

当初はアラビア語で行っていた執筆活動も、1970年代終わりより、ドイツ語に移行する。検閲などの関係で、ふるさとに住む人には届かず、亡命した人にしか読んでもらえないことも一因だった。²⁹ 1979年には化学の博士号を取得し、数学の学生だった Bettina Malmberg と結婚する。

²⁷ Wild 2006 S.54.

²⁸ Wild 2006 S.76, 136.

²⁹ Wild 2006 S.74.

1980年、シャミは、同じくシリア出身の Suleman Taufiq (1953-)、イタリア出身の Franco Biondi (1947-)³⁰ とレバノン出身の Jusuf Naoum (1941-) の4人で「南風 外国人労働者のドイツ語」(südwind gastarbeiterdeutsch) という文学グループを結成し、1985年までにアンソロジー集などのシリーズを13巻出版した。³¹

1980年には製薬会社に就職もし、クリニックを訪問する営業の仕事を担当する。当時の同僚たちとの折合いはよく、今日でも何人かは朗読会に来てくれるほどだという。しかし当時が一番不幸だった、と本人は記している。雑用に追われ、大切な執筆を片手間に——たとえば車での移動中にディクテーション用の機材を利用して——行わざるを得なかったからである。³²

作家としての活動に専念するため1982年に退職する。1985年には、前述の第一回シャミッソー賞の奨励賞を受賞した。一方でこの年には、文学グループ「南風」との別離と、妻との離婚も経験した。

執筆活動の傍ら、1980年より「物語ツアー」(朗読会)も精力的に行っている。アラブ系の作家と聞き、お香、ターバン、ベリーダンスなどを期待して来る人もいれば、ドイツ在住のアラブ系の人々が持つ不満を聞きたくて来る人もいる。そういった人が途中で帰ってしまうこともあった。最初は、大学や成人学校や書店を会場にして、数人の聴衆から始められた朗読会も、徐々に人気は高まっていった。これまでに最高で1500人が集まったこともあるという。³³

現在の妻ロート・レープ (Root Leeb 1955-)³⁴ との出会いも1990年の朗読会においてであった。1991年の『空飛ぶ木』³⁵以降、シャミの作品の表紙の装丁や挿絵を手がけているアーティストである。1999年にはシャミのアンソロジー集『ことばのいろ』³⁶のために50枚以上の挿絵を描いている。

3. 作品

退職後、それまでに書き溜めていた原稿を読み直し、手を入れ、少しずつ発表していく。1985

³⁰ Biondi は第三回シャミッソー賞 (1987年) を受賞している。

³¹ 最初に出版されたのは、Schami, Rafik u.a. (Hrsg.): Zwischen Fabrik und Bahnhof. Prosa, Lyrik und Grafiken aus dem Gastarbeiter-Alltag. Bremen 1981 であった。「南風」グループに関しては、Wild 2006 S.78ff. や濱崎 1998年 71頁以降に詳しい。

³² Wild 2006 S.88.

³³ Wild 2006 S.102. 1500名は、テュービンゲン市での朗読会での数字。Wild 2006 S.164f.

³⁴ 1955年ヴェルツブルク生まれ。ミュンヘン大学でドイツ文学と哲学を学んだ後、トルコ人にドイツ語を教授したり、フリーのアーティストとして生活するためにトラムの運転手などをしてきた。1992年にはシャミとの間に息子 Emil が誕生している。

³⁵ Schami, Rafik: Der fliegende Baum. Die schönsten Märchen, Fabeln und phantastischen Geschichten. Illustriert von Root Leeb. Kiel (Neuer Malik Verlag) 1991. シャミ『空飛ぶ木 世にも美しいメルヘンと寓話、そして幻想的な物語』池上弘子訳 西村書店 1997年。

³⁶ Schami, Rafik: Die Farbe der Worte. Cadolzburg (ars vivendi) 2002.

年の『蠅の乳しぼり』³⁷ は短編集で、ダマスカスに生きる人々を生き生きと描いている。1987年の『マルーラの村の物語』³⁸ は、両親のふるさとのマルーラ村で実際に集められたメルヘンや伝説をもとに書かれた短編集である。

『片手いっぱい星』も、退職後に手を入れて完成させたもののひとつである。これをシャミは10もの出版社に持ち込み、ようやく Beltz 社が出版を引き受け、1987年に刊行にこぎつけた。結果、チューリヒ児童文学賞など8つの賞を獲得するほどの好評を博した。翌1988年にはドイツ児童文学賞にもノミネートされた。³⁹

シャミを一躍有名にしたのは、1989年の『夜の語り部』⁴⁰ で、これは、計150万部を売り上げ、22ヶ国語に翻訳された。⁴¹ これも1990年のドイツ児童文学賞にノミネートされ、同年にハーメルン市より「ねずみとり（笛吹き）男」賞が贈られた。

これは、形式的には、『千一夜物語』や、イタリアのボッカッチョの『デカメロン』やバジレの『ペンタメローネ』を彷彿とさせる枠物語として書かれている。挿話として友人たちが語る話も非常に個性的で魅力的である。その中にはメルヘン風の内容のものも含まれている。ドイツでは、とりわけロマン派の時代にメルヘンが好まれ、『グリム童話（メルヘン）集』やハウフのメルヘン集が生まれた。とりわけ、ハウフの『隊商』『アレッサンドリア物語』⁴² はオリエンタ風のメルヘンで、今日まで読みつがれているものだが、シャミの作品は『千一夜物語』やハウフの作品の系譜上で受容されることになったといえるだろう。『マルーラの村の物語』の朗読CDには、『千一夜物語』の現代版の続編とうたわれている。⁴³

こうした成功は、シャミを「メルヘンの語り手」や児童文学の作家として印象付けることにもなった。一方でそれは一部の読者にしか読まれないことも意味した。

そのイメージに挑むかのように、1995年に刊行した『夜と朝のあいだの旅』⁴⁴ は、大人の読者だけを対象にした、初めての本となった。ドイツ語で Abendland（晩・国）である西洋と、Morgenland（朝・国）といわれるオリエントとの間を主人公でサーカスの団長のヴァレンティ

³⁷ Schami, Rafik: Der Fliegenmelker und andere Erzählungen aus Damaskus. Berlin (Das arabische Buch) 1985. 邦訳は、酒寄訳 1995年（注1）。

³⁸ Schami, Rafik: Malula. Märchen und Märchenhaftes aus meinem Dorf. Kiel (Neuer Malik Verlag) 1987. 邦訳は、シャミ『マルーラの村の物語』泉千穂子訳 西村書店 1996年。

³⁹ Wild 2006 S.112f. 通称「児童」文学賞と訳されるが、高校生くらいまでも対象としている。

⁴⁰ Schami, Rafik: Erzähler der Nacht. Weinheim, Basel (Beltz & Gelberg) 1989. 邦訳は、シャミ『夜の語り部』松永美穂訳 西村書店 1996年。

⁴¹ 2006年時点での数字である。Wild 2006 S.118.

⁴² ヴィルヘルム・ハウフ『隊商』高橋健二訳 岩波書店（岩波少年文庫）1995年、『アレッサンドリア物語』塩谷太郎訳 偕成社（偕成社文庫）1977年。

⁴³ Schami, Rafik: Märchen aus Malula. 2 CDs. Ausgewählte Märchen. Schwäbisch Hall (Steinbach sprechende Bücher) 2005. 冒頭の部分のみシャミ自身が朗読を担当している。

⁴⁴ Schami, Rafik: Reise zwischen Nacht und Morgen. München (Carl Hanser Verlag) 1999. 本稿では2002年 dtv 版を参照した。邦訳は、シャミ『夜と朝のあいだの旅』池上弘子訳 西村書店 2002年。

ンがさまよっている。そしてサーカスの生活を通し、異民族が平和に共同生活を送るユートピア的な生活が描かれる。

続く 1997 年の『ミラード』⁴⁵ も、「ミラードは売春宿でモラルを学んだ」という第六章の見出しからも分かるように、「子ども向き」とは言い難い作品である。

小説の他、政治的なエッセイも数多い。2002 年の『他国者の目で』⁴⁶ は、2001 年のアメリカ同時多発テロの後に書き綴った日記（2001 年 10 月から 2002 年 5 月まで）をまとめたものである。パレスチナ問題について語り、アラブ諸国のジャーナリズムや政治体制についても批判的な態度を明確にしている。

シャミの代表作は、2004 年の長編小説『ダークサイド』である。「アラビア」をテーマとした同年秋のフランクフルト・ブックフェアに合わせての発売という出版社の仕掛けも奏功し、ロングセラーとなり、2005 年 8 月までに 12 万部を売り上げたという。⁴⁷ この作品によって、幅広い読者を獲得し、児童文学の作者というイメージを払拭することができた。朗読 CD が愛好されるドイツでは、CD 版の『ダークサイド』も販売されているが、長編であるため、21 枚組（MP3 版は 2 枚）で、合計 1590 分の長さである。



写真 1 マルーラ村の聖テクラ修道院（ギリシャ正教）（2009 年 12 月 25 日筆者撮影）

⁴⁵ Schami, Rafik: Milad. Von einem, der auszog, um einundzwanzig Tage satt zu werden. München (Carl Hanser Verlag) 1997. 本稿では 2000 年 dtv 版を参照した。邦訳は、シャミ『ミラード』池上弘子訳 西村書店 2004 年。

⁴⁶ Schami, Rafik: Mit fremden Augen. Tagebuch über den 11. September, den Palästina-Konflikt und die arabische Welt. Heidelberg (Palmyra) 2002. 本稿では 2004 年の dtv 版を参照した。

⁴⁷ Wild 2006 S.164.

『ダークサイド』では、1870年から1970年までのシリアを舞台に、仇敵同士の Muschtak 家（カトリック）と Schhin 家（ギリシャ正教）の三代にわたる確執が繰り広げられる。軸となるのは、主人公（三代目）の Farid Muschtak（シャミの分身）と Rana Schahin の間に芽生える「禁じられた愛」である。このためアラビア版『ロミオとジュリエット』といった紹介がなされることもある。

物語の舞台は、主にダマスカスとその近郊にある Mala という村であるが、描写から、これがシャミの両親の出身地であるマルーラ村であることは容易に察せられる。



写真2 マルーラ村の聖セルジウス修道院（カトリック）（2009年12月25日筆者撮影）

長編の『ダークサイド』では、さまざまな人の人生が「モザイク」のように描きだされ、核となるストーリーの周りを彩っている。脇役として登場する人物も丁寧にリアルに描かれており、まさに「多層的な語り」⁴⁸を成しているのである。

4. シャミの語り

4.1. 自伝的要素

アデルが汗まみれになるまで遊んで帰ると、父親はご機嫌ななめだった。そうかといっ

⁴⁸ 浜崎桂子「異邦人による物語 —— ラフィク・シャミ試論」『研究年報』第45号 学習院大学文学部 1998年 149-165頁所収。155頁。

てソファに静かに寝そべって、飛びまわる蠅も気にせず冒険小説を読んでも、父親は失望の色を隠さなかった。遊びも、読書も、金持ちの子どもだけに許される時間の浪費だと考えていたのだ。アデルは、帰宅が遅くなるたびに、新たないいわけを考えださなければならなかった。手に汗にぎる盗賊の物語は、大判の数学の教科書の後ろに隠して読んだ。部屋の隅に座っている父親からは教科書しか見えなかった。父親はすっかりご満悦のようすで、何時間も数学に没頭している勤勉な息子をちょっぴり気の毒にさえ思うのだった。⁴⁹

これは、「はじめて針の穴をくぐり抜けたラクダ、あるいはハイデルベルクのラクダ乗り」という短編小説の一場面である。主人公アデルの一家はダマスカスから移住してきたという設定になってはいるが、シャミの作品には珍しく、ドイツのハイデルベルクが舞台となっている。次に「子どもの頃読んだもの」というエッセイを見てみたい。

（レバノンの）修道院から戻ると、私は（E. R. バローズ風の）くだらないターザンものやモーリス・ルブラン（『アルセーヌ・ルパン』）を山ほど読んだ。それらは隣人からもらったのだ。私の父は、これらの本を好ましく思わなかった。犯罪もの（探偵小説）は、犯罪者をうむと終生信じていたのだ。私は、版の小さな探偵小説の本を、しばしば教科書の中に隠さなければならなかった。父は私がずっと算数の勉強をしているのを不思議に思った。⁵⁰

「はじめて針の穴をくぐり抜けたラクダ、あるいはハイデルベルクのラクダ乗り」の引用箇所は、シャミ自身の体験をもとにしていることが分かる。父親がシャミの才能に気付いたため、6人兄弟の中で一番、読むものも監督されたという。そうして禁止された推理小説は、上記のように隠して大量に読んでいたことをエッセイや講演で語っている。

こうした自伝的な要素は常に指摘されるが、自らの体験だけでなく、身近な人から聞いた話にヒントを得て話を作ることも多い。さまざまな人の体験が混ぜ合わされ、小説に昇華されている。

『片手いっぱい星』で、「ぼく」は、学校をやめさせられ、パン屋の手伝いをさせられている。これにはシャミの父親の体験が反映されているという。裕福な家庭に生まれ、成績が良かった。

⁴⁹ シャミ『モモはなぜJ・Rにほれたのか』池上純一訳 西村書店 1997年 160-161頁からの引用。Schami, Rafik: Der Kameltreiber von Heidelberg. München (dtv) 2008 S.8.

⁵⁰ 傍点は筆者。Schami: Kindheitslektüre S.28.

たにもかかわらず学校を退学させられ、そのことを一生悲しんでいたという。⁵¹ この他は『片手いっばいの星』はシャミの自伝的な要素が強い。

シャミは、レバノンの修道院でフランス語を話すことを強要され苦勞をしたことは既に述べたが、『ダークサイド』の Farid も修道院で同様の苦勞をする。Farid は、ダマスカスではおしゃべりで有名だったのだが、修道院では、アラビア語を話せば罰の印をもらうので、黙っていることにする。そうして無口な子と思われてしまう。⁵² ここに、抑圧的な学校生活の中、言葉を失っていく様子が象徴的に描き出されている。同様の学校での被抑圧的な体験は、『片手いっばいの星』にも反映されている。

外国に住み、言語などで苦勞を重ねることは、『夜の語り部』でもテーマとなっているが、ここでは明るく笑いに包んで語られる。その他にも本人もしくは身近な人物が体験したであろう挿話がいくつも盛り込まれている。「シリアはトルコの隣国だ、と何千回説明したことか。それでも彼らはわたしをトルコ人と呼んだよ」⁵³ 「ほんとにアラブ人なら、イスラム教徒なんだろう」⁵⁴ などという言葉は、シャミならずとも中東の小国出身でキリスト教徒ならば一度は耳にするものなのだろう。

さて、『ダークサイド』の核をなす Farid Muschtak と Rana Schahin の愛の物語も、1971年にベイルートで母親から聞いたものだという。⁵⁵ まさにドイツに向けて旅立つ直前のことで、この物語の構想は長年練り続けられ、完成したのは2004年だった。

シャミの身近にもドラマチックな恋愛結婚の話があった。結婚を反対された両親が、殺害予告の脅迫まで受け、レバノンに駆け落ちをしたが、⁵⁶ こうしたエピソードも『ダークサイド』に反映されている。

4.2. 筋の先取り

「だけどおまえ、息詰まるような場面で、ぷੱつり中断する気じゃないだろうな？」

「悪いけど、お察しのとおりさ。俺はそんなふう話すつもりさ。おまけに、たぶん、俺ならもっといやらしく、こうつけ加えるだろう……」⁵⁷

これは、『夜と朝のあいだの旅』で、久しぶりに再会した幼馴染に、主人公が自分の母親の語

⁵¹ Schami: Hürdenlauf S.130.

⁵² Schami: Die dunkle Seite der Liebe S.482.

⁵³ 松永訳『夜の語り部』175頁。Schami: Erzähler der Nacht S.153.

⁵⁴ 松永訳『夜の語り部』177頁。Schami: Erzähler der Nacht S.154. なお、物語の中では、登場人物がこうした体験をする場所はアメリカとされている。

⁵⁵ Schami: Die dunkle Seite der Liebe S.1026.

⁵⁶ Wild 2006 S.14f.

⁵⁷ 『夜と朝のあいだの旅』152-153頁。Schami: Reise zwischen Nacht und Morgen S.119.

を少しずつ語る約束をする場面である。その時、幼馴染は『千一夜物語』の語りのように、話が盛り上がったところで打ち切るのはやめてほしいと頼むのである。『千一夜物語』を想起させるこうした語りの技術が、『ダークサイド』においては巧みに用いられている。さらに各章の終わりに、先の展開を垣間見せる描写を入れ、(それがたいてい意外性のある展開なのだ) 先への興味をかきたてておきながら、故意に話を別の方向へとそらし、読者にもどかしい思いをさせながらも、先にと読み進ませる語り方である。

こうした語りの技術を、シャミは既に子どもの頃に学び始めていたようだ。かつて、カイロ放送で『千一夜物語』の番組があったという。リムスキー=コルサコフの音楽『シェエラザード』で始まる30分の深夜番組だったため、シャミは母親に懇願し、夜中に起こしてもらっていた。早朝からパン屋での仕事のある父親が寝ている一方で、母と二人でラジオを聞いたことを懐かしく思い返している。この番組は、2年8ヶ月続いたという。放送は、いつも一番盛り上がるところで話が打ち切れ、続きは翌日まで待たねばならなかった。そのためシャミは、話の続きをいくつものパターンで考え出していたという。⁵⁸ この時既に巧みな語りを身をもって体験しつつ、物語創作の練習もしていたのだ。

『ダークサイド』は、いくつかの章を「〇〇の書」、たとえば「愛の書」(Buch der Liebe)にまとめているが、これはゲーテの『西東詩集』の「うたびとの書」(Buch des Sängers)⁵⁹などを踏襲したものである。シャミは、1977年に体調を崩していた時に『西東詩集』を読み、魅了されたという。⁶⁰ 2001年にはGutzschhahnと共同で『詩人ゲーテに関する秘密の報告書』⁶¹を上梓している。

シリアではドイツ文学には縁遠かったシャミだが、⁶² ドイツでの滞在が長くなるにつれて、ドイツの文化の影響がみられるようになる。『ミラード』は、作者であるシャミが創作したものではなく、ミラード本人から聞いた話である、という形式をとるが、これはE.T.A.ホフマンの語りを連想させる。⁶³

『ミラード』の原タイトルは、Milad. Von einem, der auszog, um einundzwanzig Tage satt zu werden (ミラード。21日間満腹になるために出かけていった男の話)であり、『グリム童話』の第四話のタイトル Märchen von einem, der auszog, das Fürchten zu lernen (怖がることを習いに

⁵⁸ Schami: Kindheitslektüre S.28f., Schami: Hürdenlauf S.135. この話は、『夜と朝のあいだの旅』で挿話としても語られている。池上訳 387頁。Schami: Reise zwischen Nacht und Morgen S.302f.

⁵⁹ Goethe, Johann Wolfgang von: West-östlicher Divan. In: Werke. Hamburger Ausgabe. Bd.2. München (dtv) 1998 S.7. 『ゲーテ全集 2 詩集』生野幸吉訳 潮出版社 2003年 84頁。

⁶⁰ Wild 2006 S.139.

⁶¹ Schami, Rafik / Gutzschhahn, Uwe-Michael: Der geheime Bericht über den Dichter Goethe. Der eine Prüfung auf einer arabischen Insel bestand. München (dtv) 2001.

⁶² フランスやイギリス、ロシア、トルコ、アメリカの文学作品は入手できたものの、ドイツのものはほとんど手に入らなかったという。(Wild 2006 S.139.)

⁶³ 鈴木 2006年 54頁。

出かけていった男の話) に似せて作ったものであることは明らかだ。

こうしたつながりは、ドイツ文学にとどまらない。『ダークサイド』に登場するマンスールという男は、アガサ・クリスティーと夫で考古学者のマックス・マローワンのもとで通訳として働いた経験があるという設定である。マンスールは、クリスティーの旅行記『さあ、あなたの暮らしぶりを話して』⁶⁴ に登場するのだが、その男を31年後の姿で自分の長編小説に登場させているのである。



写真3 アレppoの「バロン・ホテル」。夫の発掘調査旅行に同行したアガサ・クリスティーが泊まったホテルである。ロレンス (Thomas Edward Lawrence) も宿泊したという。(2009年12月24日筆者撮影)

自ら生み出した登場人物を、いくつかの物語に再登場させることもある。『夜の語り部』のサリムは、『蠅の乳しぼり』と『片手いっぱい星』に既に登場している。⁶⁵ 人気の高いサリムを、『ダークサイド』でも何度か御者として登場させているのは読者へのサービスだろう。大人向けの話では、『ミラード』のナリマンという売春婦が、『ダークサイド』にも登場している。なじみの登場人物を探すことも、作品を読む上でのひとつの楽しみになるという仕掛けになっているのだ。

⁶⁴ クリスティー『さあ、あなたの暮らしぶりを話して―クリスティーのオリエント発掘旅行記』深町真理子訳 早川書房1992年。文庫版(早川書房2004年)には口絵に写真が掲載されており、そこにマンスールも写っている。クリスティーは夫の発掘調査旅行に頻繁に同行していたが、これは、1934年より実施されたシリアでの調査に同行した際の旅行記である。

⁶⁵ 短編集『蠅の乳しぼり』には、サリムの登場する話が数話ある。『片手いっぱい星』のサリムは、「ぼく」の祖父で一番の友人である。

4.3. 帰れない故郷、ダマスカスへの想い

異国にいと、人はよく子供のころに住んでいた土地への郷愁にかられるものだ。もっと長じてからすごした場所をなつかしく思うことはない。⁶⁶

ドイツは徐々に第二の故郷になっていき、現在の生活に満足をしていても、シャミは故郷を忘れることはない。作品のところどころにダマスカスへの郷愁があふれている。

『ダマスカス』⁶⁷ は故郷の町と人と食にまつわるエッセイにアラビア料理のレシピを付けた本である。最初の章では、さまざまな不幸にみまわれながらも笑顔を絶やさない Salime お婆の話が語られる。お婆は、春から夏には毎週日曜に近所の女性を数名招待して、「タプーレ」というダマスカスで最も有名なサラダを作ってもてなす。このイタリアン・パセリのサラダだけは、弔事に饗することはないという。⁶⁸ こうしたエピソードが紹介され、各章の終わりにレシピが掲載される。ちなみにこのサラダは、『ダークサイド』においても、Farid の母親が、近所の女性たちを自宅に招待する際に作って、ふるまっている。⁶⁹

小説の中でも、長い歴史を持つ美しい都市ダマスカスとそこに住む人々を愛情をもって描き出している。

『片手いっぱい星』は、「ぼく」の日記という形で、ダマスカスの少年の生活を描いた作品だが、シャミと同様にキリスト教徒の「ぼく」の家は、聖パウロ教会のそば（キリスト教徒の居住区）にある。

家の先の角を曲がったところでサウロという平凡な男が幻影を見てキリスト教に改宗し、聖パウロとなったという。サウロはそれまではキリスト教徒を迫害していた。ある日サウロは、キリスト教徒を見つけ出し、エルサレムに連行するためにダマスカスにやってきた。ところが、ダマスカスの少し手前で、イエスが明るい光となって彼の前に現れ、彼が自分を苦しめている、と告げた。サウロは地面に倒れ、ふたたび立ち上がった時には目が見えなくなっていた。その後、アナーニアという男が彼の目を治し、彼をキリスト教に改宗させた。

アナーニア小路は、家から数百メートルのところ、そこには聖アナーニアの家という

⁶⁶ 池上訳 『夜と朝のあいだの旅』236頁。Schami: Reise zwischen Nacht und Morgen S.182.

⁶⁷ Fadel, Marie / Schami, Rafik: Damaskus. Der Geschmack einer Stadt. Zürich (Sanssouci) 2002. CD版は3枚組。冒頭のエッセイをシャミ自身が朗読している。Damaskus - Der Geschmack einer Stadt. Schwäbisch Hall (Steinbach Sprechende Bücher) 2008.

⁶⁸ Fadel / Schami 2002 S.18.

⁶⁹ Schami: Die dunkle Seite der Liebe S.574. 「タプーレ」については、黒木英充「歴史的シリア」(『世界の食文化 10 アラブ』大塚和夫編 農山漁村文化協会 2007年 48-87頁所収) 63頁に詳しい説明がある。

小さな礼拝堂がある。⁷⁰

パウロも、キリスト教徒になったが故に迫害される。反逆者とされ、追手の兵士たちから長いあいだ身を隠さなくてはならなかった。パウロがいなかったら、今日、キリスト教は存在しなかったろう。彼が教会の仕組みを作りあげたのだ。昔、夜のあいだに家の前の通りを逃げていき、最後はかごの中に身をかくし城壁を越え逃亡したパウロが、あの時みつかって殺されていたら、一体そのあとこの世はどうなっていただろう？⁷¹



写真4 ダマスカスの聖アナーニア教会。アナーニアが、サウロに洗礼を授けた。
(2009年12月26日筆者撮影)

⁷⁰ 若林訳『片手いっぱい星』205-206頁。Schami: Eine Hand voller Sterne S.128. 『ダマスカス』でも同じ話が紹介されている。Fadél / Schami 2002 S.17. なお、シャミの一家が実際に住んでいたのは、パウロが逃亡するときに通ったという Abbara Gasse である。聖書の記述は、以下の通りである。「ダマスコでアレタ王の代官が、わたしを捕らえようとして、ダマスコの人たちの町を見張っていたとき、わたしは、窓から籠で城壁づたいにつり降ろされて、彼の手を逃れたのでした。」「コリントの信徒への手紙」新共同訳『聖書』(新) 339頁。

⁷¹ 『片手いっぱい星』206頁。Schami: Eine Hand voller Sterne S.128. 聖書の記述は、「使徒言行録」新共同訳『聖書』(新) 229-230頁にある。



写真5 ダマスカスの聖パウロ教会
(Bab Kisan) 内のレリーフ。
パウロがかごの中に入り、降り
ていく様子が描かれている。
(2009年12月26日筆者撮影)

小説の中で、「ぼく」の友人で新聞記者のハビーブは、この話には信憑性がないと考えている。こうしてシャミは距離をとりながらも、ダマスカスの伝説を紹介している。パウロがかごの中に隠れて越えたとされる場所も、現在では観光地である。(写真5と6)そして『ダークサイド』の冒頭で語られる殺人事件は、ここが舞台となる。聖パウロ教会の上方に、死体が入ったかごがぶら下がっているのを、通行人が発見するのだ。

伝説にちなんだ場所であるため、警官は、キリスト教徒がパウロの逃亡を再現し追悼しているだけだと言って、最初は取り合わない。ここが死体遺棄場所選ばれたのは、殺害された人物の別名ゆえである。謎は物語では最後に明かされるので、ここではこれ以上は言及しない。

『ダークサイド』の舞台の大半はダマスカス



写真6 聖パウロ教会 『ダークサイド・オブ・ラブ』の冒頭では、死体の発見場所とされる。(2009年12月26日筆者撮影)

である。主人公 Farid と友人は、ダマスカス大学に進学し、ある日 Bakdasch という有名なアイスクリーム屋に入る。すると偶然にも女主人公の Rana と友人がおり、一緒にテーブルに座ることができる。⁷² 普段は会うこともかなわない二人にとっての平和なひとときとなる。物語では 1962 年の設定であるが、Bakdasch は、今日でもガイドブックで紹介されている人気の店である。(写真 7)

『ダークサイド』では、現実の暗い面も描きだされ、時として暗く重苦しくなる傾向にある。そこに、上記のような平和な場面や微笑ましい話を差し挟み、バランスをとっている。とりわけ「笑いの書」(Buch des Lachens) として組み込まれているものが、その役割を担っている。こうしてシャミは「多層的な語り」を実現している。それまでのシャミにとっても常套の手法であるが、『ダークサイド』は大部であるだけに、構成も一層巧みになっている。



写真 7 スーク・ハミディーエにあるアイスクリーム屋 Bakdasch。『ダークサイド・オブ・ラブ』では何度か舞台となっている。Rana がおば (Jasmin) とアイスクリームを食べに行ったり、Farid と Rana が偶然出会ったりする。(Schami: Die dunkle Seite der Liebe S.9, S.766) (2009 年 12 月 26 日筆者撮影)

⁷² Schami: Die dunkle Seite der Liebe S.766. 物語の中には、これが「有名なアイスクリーム屋」だという記述もある。Schami: Die dunkle Seite der Liebe S.9. 店の看板には Bakdash とあるが (写真 7)、シャミの小説ではドイツ語風に Bakdasch と表記されている。

この写真は、作者の意向により
機関リポジトリでの公開を
行っておりません

写真 8 Bakdasch の店頭 (2009 年 12 月 26 日筆者撮影)

『ダマスカス』は、アラビア料理の本として、料理が趣味のシャミに提案された企画であった。シャミ自身は多忙かつ亡命している身で、ダマスカスに行くことができないため、兄弟姉妹の中で最も仲の良いすぐ下の妹 Marie が代わりにダマスカス旧市街を歩き、知り合いから秘伝のレシピを聞き、それをシャミがドイツ語にするという趣向となっている。⁷³

ダマスカスに行くことができないと、明るいトーンで語られる⁷⁴ のだが、その裏には、シリア政府が今日までシャミの入国を拒否しているという厳しい現実がある。

シャミの父親が 1995 年に、母親が 1997 年に他界した時も、たとえ肉親の葬儀の名目であっても、シリア政府はシャミの入国を許可しなかった。⁷⁵

その理由は、シャミが母国の政治、社会に対して批判的な態度を隠さないからである。

4.4. 禁断のトライアングル

シャミはしばしば作品の中に故郷への愛をつづるが、オリエントの賛美に終始するのではなく、暗い面からも目をそむけることをしない。ゆえに物語には常に影の部分がつきまとう。この意味でもシャミの語りは「多層的」であり、「平面的」なメルヘンとは本質的に異なる。⁷⁶

⁷³ Fadel / Schami 2002 S.7.

⁷⁴ 朗読 CD では、冒頭のエッセイは、シャミ自身が朗読を担当している。

⁷⁵ Wild 2006 S.133.

⁷⁶ リュティの言う「平面性」。シャミには「メルヘンの語り手」というイメージがつきまとうが、その語りはメルヘンの平面的な語りとは程遠い。リュティ、マックス『ヨーロッパの昔話』岩崎美術社 1969 年。またプロップの言うところの「加害 (欠如)」—「解消」などの対応もない。プロップ『昔話の形態学』北

『ダークサイド』では、殺人や報復、「強制結婚」の話も多く、ある主要な人物が「強制結婚」から逃れられない。こうした「強制結婚」をシャミは一貫して非難する姿勢を貫いている。しかし物語の中では、反対を押し切り「強制された」相手ではない者との結婚に踏み切った男女には、報復が待っていることもある。

ギリシャ正教の Schahin 家に生まれた Jasmin (Rana のおば) は反対を押し切り、既婚のイスラム教徒の男性と結婚し、国外に逃げる。数年後にダマスカスに戻ってくると、そこで待っていたのは、和解ではなく、甥の Samuel (Rana のいとこ) による殺人であった。Jasmin は「キリスト教徒の恥」であるから、殺害を「英雄行為」として親族が祝う様子を、シャミはグロテスクに描き出す。⁷⁷

ここでは、殺害する者も、殺害される者も、意図的にキリスト教徒という設定になっている。

こうした殺人は、物語の中ではイスラム教徒の間で行われる場合もある。反目しあっている家族同士の Aischa と Bassam は、結婚が許されず、「別の男と結婚するか、死ぬかだ」と兄に迫られる。二人で外国に逃亡するところを Aischa は兄に撃ち殺される。主人公の Farid は、子どもの時に偶然にその場面を目撃してしまう。⁷⁸

「名誉殺人」は、今日のドイツにおける報道からは「イスラム教」の産物であるという印象を受けやすいことにシャミは注意を喚起している。たとえば 2008 年 5 月にハンブルクで 23 歳の兄が 16 歳の妹を刺殺した事件。そうした報道の際に、再三言及がなされる 2005 年ベルリンでの兄弟による妹の殺害事件。⁷⁹ どちらの家族もイスラム教徒であり、「イスラム教」が危険であるとのイメージが生まれやすいことに対しても問題提起をするべく、シャミは、物語の核となる主要な筋には、意図的にキリスト教徒の登場人物を置いたのである。前述の Jasmin に対する「名誉殺人」は、キリスト教徒が行ったものである。Farid と Rana の一族もキリスト教徒同士でいがみ合い、殺人まで起きている。こうした行為を、宗教的な背景に短絡させることの危険性にシャミは注意を促している。彼は、アラブ諸国で個人を制御し、近代化も阻んでいるのは、部族 (Sippe) という社会的な組織の形だとみなしているのである。⁸⁰

何よりシャミが訴えているのは独裁の恐ろしさである。そして独裁下で、政府を批判した者を待つ悲劇を描く。

子ども向けの本とされる『片手いっぱいの星』において、「ぼく」の父親は、反政府運動をしている弁護士と同姓同名であったために、間違っ政府に捕えられ、四日にわたって拷問を受

岡誠司・福田美智代訳 水声社 1989 年。

⁷⁷ Schami: Die dunkle Seite der Liebe S.9.

⁷⁸ Schami: Die dunkle Seite der Liebe S.60.

⁷⁹ Die Zeit 2009 Nr.8. (12.02.2009) „Mord mit Ansage“. 2008 年の事件はアフガニスタン出身の家族、2005 年の事件はクルド人の家族に起きた。

⁸⁰ Wild 2006 S.161.

けている。⁸¹ これも実際の出来事にヒントを得たものだという。シャミが13歳の時に父親が誤認逮捕されたのである。⁸² 物語では、「ぼく」の友人ハビーブも「政府の不興を買わないために、事実を曲げて書かなければならない新聞記者の立場について記事を書いた」⁸³ ため、まずは三週間拘束される。

「五日目、ハビーブさんはひどい拷問を受けた。気を失って倒れ、気がついた時には監房にもどされていた。」⁸⁴

(ハビーブさんは)「シャツをはだけて見せた。胸は、ひどい傷あとだらけだった。」⁸⁵

暴行を受ける様子が事細かに描写されるわけではなく、これ以上立ち入った描写はない。そしてハビーブに待っているのが拷問死であることも、「拷問にかけて殺してしまうか、それとも頭がおかしくなるまでいじめぬいて、精神病院に送り込むだろう」⁸⁶ というマハムート(「ぼく」の友人)の言葉に暗示されるのみで、明記はされない。

出版元 Beltz は児童文学に重点をおく出版社で、シャミが『片手いっぱい星』の原稿を持ち込んだ際には、子どもが感情移入できる人物がないことを指摘した。そうして語り手の「ぼく」が作られた。しかし、物語を短縮したり、子どもに相応しく書き換えたりといった提案は、シャミが拒否した。前例にならった作品を作りたかったのではなく、独裁下で人々が無口になる(黙らせられる)ことをテーマにしたかったのである。⁸⁷ とはいえ、それを「重苦しく」「露骨」に描くこともしなかった⁸⁸ ため、『片手いっぱい星』は若い読者向けのものとして歓迎され、数々の賞を受賞したのだった。さらに、1988年にフランス語に訳されたのを皮切りに、少なくとも23ヶ国語に訳され、世界的なベストセラーともなっている。⁸⁹

独裁下に生きる人々の苦しみは、シャミにとっての変わらぬテーマとなっている。『夜の語り部』も子ども向きの本とされるが、サリムを、独裁下で口が利けなくなる人のメタファーとしている。⁹⁰

反政府的な言論に対する弾圧は遠い過去の話ではない。アムネスティ・インターナショナルは、2009年にも「シリア政府を批判したという理由で3年の刑を宣告されたハビブ・サレ(61

⁸¹ 若林訳『片手いっぱい星』170頁。Schami: Eine Hand voller Sterne S.105.

⁸² Wild 2006 S.47.

⁸³ 若林訳『片手いっぱい星』215頁。Schami: Eine Hand voller Sterne S.134.

⁸⁴ 若林訳『片手いっぱい星』226頁。Schami: Eine Hand voller Sterne S.141.

⁸⁵ 若林訳『片手いっぱい星』228頁。Schami: Eine Hand voller Sterne S.142.

⁸⁶ 若林訳『片手いっぱい星』316頁。Schami: Eine Hand voller Sterne S.196.

⁸⁷ Wild 2006 S.113.

⁸⁸ 訳者によるあとがき。若林訳『片手いっぱい星』325頁。

⁸⁹ Wild 2006 S.115f.

⁹⁰ Wild 2006 S.121, 浜崎 1998年 157頁。

歳)に対する昨日の判決を非難」している。⁹¹ さらにアムネスティ・インターナショナルの1983年の報告には弾圧の詳しい内容が紹介されている。「シリア治安部隊は拷問と政治的殺戮を含む、人権に対する組織的暴力を行使している。数千人の人々が逮捕され、訴える機会もなく拘留され、多くの場合、拷問を受け、殺害されている。電気ショック、火あぶり、鋼鉄製ケーブルでのムチ打ち、性的暴力、近親者の眼前での拷問や性的暴力など、残酷な待遇と拷問が、かつて拷問された者たちから二三例報告されている。」⁹²

シャミは、『ダークサイド』の執筆に本格的にとりかかるにあたり、物語にリアルな肉付けをするため、そうした拷問の記録なども含めて出来る限りの資料を収集した。百科事典などから関連記事を集めるだけでなく、知り合いに頼み、シリアから新聞や写真をはじめとした種々の資料——これには、投獄された経験のある人とのインタビューを文字や音声で記録したものが含まれる——を秘密裏に持ち帰ってもらったのである。⁹³ 『ダークサイド』ではこのテーマに真っ向から取り組もうとしたのである。

そして、『ダークサイド』の主人公 Farid も共産党での活動をしていたため投獄され、上記のような拷問を受けている。電気ショックの場面では、口を無理やりこじ開けられ、銅線の中に入れられ拷問を受ける場面が、登場人物の心理も描写されている。⁹⁴ それには屈せず果敢に反抗していた Farid が、注射に対しては、持病もあるために恐怖心をあらわにし、やめるよう懇願してしまうが、駆け引きの後で無残に願いが無視される場面も、心理描写も含めて具体的な記述がある。⁹⁵

『ダークサイド』においては、そうした現実の暗い面の描写にも果敢に挑み、「新しいシャミ」、「シャミの別の面」と評された。⁹⁶ 性に関しても『ミラード』以上にオープンな描写が目立つのも、こうした評の一因となっている。

「セックス、宗教、政治は、禁断のトライアングルさ。分別があつて長生きしたいと思う作家は、このトライアングルを恐れ、避けようとする。あんたは勉強が足りないな」⁹⁷

これは『ミラード』でのシリアの編集者の男の言葉だが、こうした「禁断の」テーマについても、シャミはドイツでの執筆活動が長くなるにつれて、いっそう自由に語るようになってい

⁹¹ アムネスティ発表国際ニュース 24/006/2009 (2009年3月16日)。

⁹² 小山茂樹『シリアとレバノン』東洋経済新報社 1996年 140頁からの引用。

⁹³ Schami: Die dunkle Seite der Liebe S.1023ff., Wild 2006 S.162.

⁹⁴ Schami: Die dunkle Seite der Liebe S.909.

⁹⁵ Schami Die dunkle Seite der Liebe S.942f.

⁹⁶ Wild 2006 S.165.

⁹⁷ 池上訳『ミラード』28頁, Schami: Milad S.20.

るのである。

おわりに

本稿で考察してきたように若い読者向けの小説においても政治的な内容も避けていないため、長い間シャミの作品のアラビア語への翻訳は実現しなかった。ようやく 2003 年に、ドイツのケルンに拠点をおく（検閲を受けていない）イラク系の出版社 Al-Kamel をみつけ、2005 年夏に『詩人ゲーテに関する秘密の報告書』⁹⁸、2008 年に『片手いっぱい星』⁹⁹ のアラビア語版が出版された。『夜の語り部』の翻訳も計画中のことである。これらは本人が直接翻訳しているわけではないが、翻訳者とは緊密に共同作業を行なっている。¹⁰⁰

亡命をすると、毎朝故郷の町のことを考えるものだというのを、ドイツに来る前は思いもなかった。¹⁰¹

とりわけダマスカスは秋が美しい、とシャミはことあるごとに讃えている。¹⁰² そのような秋の日に、新聞の発行禁止を言い渡され、絶望して泣きながら街を走り回ったという。そのとき、愛するダマスカスを去らねばなくなる日も速くないだろうことを悟ったという。それでも、亡命が「私の精神を救ってくれた」と振り返っている。¹⁰³ こうして愛する故郷を去る代わりに手に入れた言論の自由をかみしめながら、シャミはこれからもふるさとを舞台とした物語を語り続けるだろう。

⁹⁸ Schami, Rafik / Gutzschhahn, Uwe-Michael: Al-Taqrîr al-sirrî 'an al-Shâ'ir Goethe. Übersetzt von Nuha Forst. Köln (Al-Kamel Verlag) 2005.

⁹⁹ Schami, Rafik: Yadun mal'a bi-n-nujum. Übersetzt von Kamiran Hudj. Köln (Al-Kamel Verlag) 2008.

¹⁰⁰ Wild 2006 S.116.

¹⁰¹ Schami: Die dunkle Seite der Liebe S.1030.

¹⁰² Schami: Die dunkle Seite der Liebe S.268. 若林訳『片手いっぱい星』83 頁、Schami: Eine Hand voller Sterne S.52 他。

¹⁰³ Schami: Hürdenlauf S.139f.